

平成18年度病害虫発生予報第12号

平成19年 3月 7日
鳥取県病害虫防除所

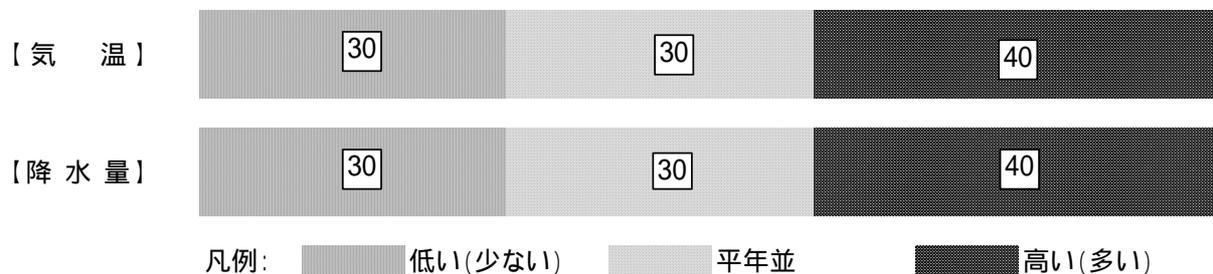
予報の概要 [参考]

区 分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	ばか苗病	平年並	少ない
		イネシンガレセンシュウ	平年並	やや少ない
	ムギ (オオムギ)	赤かび病	早い	やや少ない
		うどんこ病	早い	やや多い
		小さび病	早い	少ない
		網斑病	-	やや多い
果 樹	ナシ	黒斑病	やや早い	平年並
		ハダニ類	やや早い	やや多い
		カメムシ類	-	平年並
野 菜	ラッキョウ	灰色かび病	早い	やや多い

気象予報 (抜粋)

1か月予報 (3月3日~4月2日: 3月2日 広島地方気象台発表)
天気は数日の周期で変わるでしょう。

< 向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >



普通作物

[イネ]

1 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域
発生時期 平年並 (育苗期)
発生量 少ない

(2) 予報の根拠

- ア 昨年の発生は少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。
- イ 耐性菌に対する防除効果の高い薬剤が普及している。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した物は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。なお、使用済み薬液は適正に処理すること。

ウ 種子消毒（浸漬処理）にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせて、十分にかき混ぜる。また、薬液の温度が10以下にならないよう注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2 イネシンガレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の本虫による葉先枯れ症状の発生はやや少なかったため、汚染率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した物は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。なお、使用済み薬液は適正に処理すること。
- ウ 低濃度長時間浸漬の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。

[ムギ(オオムギ)]

1 赤かび病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域
発生時期 早い
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

- ア 本年は出穂期が早まることが予想されていることから、気象条件は本病の発生を助長しないと考えられる。
- イ 農業試験場内の二条オオムギ、六条オオムギの出穂期は、かなり早いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本県では近年発生が目立ってきているので注意する。また、赤かび病に対する検査基準が厳しくなっていることから、防除を徹底する。
- イ 特に六条オオムギは、二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので注意する。
- ウ 発生後の防除は困難なため、予防防除を基本とする。六条オオムギでは穂揃い期およびその7～10日後、二条オオムギでは穂揃い期に薬剤防除を行う。
- エ 防除薬剤は、トップジンM粉剤4kg/10a、トップジンM水和剤の1,000～1,500倍液、チルト乳剤25の1,000～2,000倍液（使用液量60～150リットル/10a）等を使用する。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域
発生時期 早い
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 3月3日現在、一部のほ場で発生が認められており、平年に比較して初発生が早い。

イ ムギの生育は、平年に比べて茎数が多くなっている（二条オオムギ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉色が濃く、過繁茂のほ場では多発の恐れがあるので注意する。

イ 主要農作物病害虫防除指針等を参考にして、発病初期に防除を行う。

3 小さび病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域

発生時期 早 い

発生量 少 ない

(2) 予報の根拠

近年、発生はほとんど認められていない。

(3) 防除上注意すべき事項

主要農作物病害虫防除指針等を参考にして、発病初期に防除を行う。

4 網斑病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月3日現在、発生ほ場率は55.6%であり、昨年12月の調査時(発生ほ場率:11.1%)に比較して、発生が拡大している。また、大半のほ場で上位葉への病斑の進展も認められている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生ほ場では、出穂期～穂揃い期にチルト乳剤25の1,000倍液(使用液量60～150リットル/10a)を用いて防除を行う。

イ 本病は種子伝染するため、発病ほ場から採種しない。

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 本年のナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、側枝上の枝病斑数および腋芽の病芽率は平年を下回ったが、短果枝の病芽率はほぼ平年並であった。

イ 今後の気象予報から、本病の発生時期はやや早いと見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 3月中に枝病斑削り取り後のトップジンMペーストによる塗布作業を徹底して行う。特に、枝病斑は2～3年生部分の側枝に集中して形成されているので、側枝全体をよく見て病斑の削り取りとトップジンMペーストの塗布を行う。

イ 3月下旬～4月(発芽期～開花前)になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになるので、この時期に園内を2～3回見回り、短果枝および腋芽の腐れ芽を徹底して取り除く。

ウ 薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤500倍液を散布する。さらに、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにジアリン水和剤600倍液またはジラム・チウラム（パルノックスまたはダイボルト）フロアブル500倍液を散布する。

2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度は、クワオオハダニ越冬卵数が平年よりやや多く認められている。また、一部のナシ園ではナミハダニの密度が高い。

イ 今後の気象予報から、発生時期はやや早いと見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 昨年、ハダニ類が多発生となった園では特に注意して観察する。また、枝、樹皮、誘引なわ等に越冬虫が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想される。

イ 防除は3月15日頃までにハーベストオイル50倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日以上あける。

3 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

簡易小屋トラップによるクサギカメムシの越冬成虫数は、トラップ当たり8.8頭（平年：8.7頭）と平年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山際および作業小屋周辺では、越冬成虫による幼果の被害が懸念されるので、3月下旬までに果樹園内の小屋をきれいに清掃し、成虫を見つけ次第捕殺する。

イ 例年春先に加害を受ける園や、昨年秋期に家などにクサギカメムシが多く飛び込んできた地域では、ほ場を定期的に見回るなど注意を怠らないように徹底する。

野菜

[ラッキョウ]

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 早 い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 本病の初発生時期は、平年に比べて早い2月上旬であった。

イ 2月下旬現在、現地ほ場における本病の発生量はやや多い。

ウ 本病は春先の気温が高く降雨が続くと発病が増加しやすい。気象予報によると、今後の気象経過は本病の発生にやや助長的であると見込まれる。

エ 現時点の本病の症状は、葉先枯れおよび葉身中位部の白色斑点症状がみられる初期症状であるが、今後、被害枯死葉上に分生胞子の形成がみられるようになる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本年は暖冬の影響により、本病の発生が大幅に早まっているため、本病の防除期間が例年に比べて長期化することが予想される。このため、防除間隔が空きすぎないように注意して、4月下旬まで以下の薬剤を輪番に使用する。薬剤はフロンスайд水和剤2,000倍液、ダコニール1000の1,000倍液、ロブラール水和剤1,000倍液、カンタスドライフロアブル1,500倍液など。

イ 降雨後には、枯れた葉上に多数の分生胞子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 窒素肥料の過多等によって茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい内容は、独立行政法人 農薬検査所の「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.acis.go.jp/>)

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、
周辺への飛散には充分注意しましょう。

《鳥取県病害虫防除所ホームページ》

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所
〒680-1142 鳥取市橋本 260
TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647
E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

今年度の予報は今回で最終となります。次回、平成19年度予報第1号の発表は、平成19年4月5日(木)の予定です。